

令和4年度 湯梨浜町立湯梨浜中学校 学校経営方針

1 校訓

『三智創造』

- ・湯梨浜中学校に特色ある三つの地域の人材が集い、ともに学び、創造性豊かな人間形成をめざし、未来を見据え、「開智・仁智・叡智」を修めた人材が新たな智を創造する。

2 教育目標

- (1) 知育・徳育・体育の向上をめざし、未来を切り拓くたくましさを身につけた生徒の育成
- (2) 人権を尊重し、人と人とのつながりを大切にし、思いやりのある心豊かな生徒の育成
- (3) ふるさとに関心を持ち、ふるさとを愛し、地域社会に貢献しようとする生徒の育成

3 めざす生徒像

- (1) 【立志】高い志を立て、その実現のためにともに学び合い、未来を創り出そうとする生徒
- (2) 【親愛】自らよりよい人間関係を築き、思いやりを持ち、ともに伸びようとする生徒
- (3) 【創造】夢や目標に向かって自ら課題を発見し、粘り強く取り組み、課題を追求しようとする生徒
- (4) 【郷土愛】ふるさとを愛し、地域社会の発展に貢献しようとする生徒

4 本年度の重点

- 育てたい資質・能力を明確にし、生徒と共有して、共に実践の創造をめざす。
- 教職員同士、家庭、地域等と連携を大切にして課題解決や目標の達成をめざす。
- 生徒に範を示す。

(1) 学習に自ら主体的に取り組む生徒の育成に努める。

- ①新しい学力観に沿って主体的な学習活動を促進し、協同学習の理念を活かしてともに学ぶ態度を育む。
- ②学習規律を徹底し、自ら授業を改善する学習集団を育てる。
- ③家庭学習と授業をつなぎ、学習内容の確実な定着と学びに向かう力を高める。

(2) 体験を通して温かな人間関係づくりを促進し、生徒自ら魅力的な学校づくりに取り組めるよう努める。

- ①想像力と共感性を伸ばし、多くの人の立場で考え、自他共に大切にしようとする態度を養う。
- ②生徒会活動や短学活を活かし、日々の生活を振り返り、改善しようとする態度を養う。
- ③生徒自ら楽しめる活動を企画することや、ふるさとに貢献できる活動に取り組ませる。

(3) 保護者や専門機関、地域との連携を深め、長期欠席への対応や特別支援教育の推進に努める。

- ①長期欠席が生じないよう、また学校復帰ができるよう保護者との連携を大切にし、小学校や地域との連携を深め、機敏に丁寧に対応できるよう心がける。
校内組織に加え、教育相談員・S C・専門機関等との連携を充実させ、組織的・的確な支援対策を講じる。
- ②仲間づくりを充実させ、SST や hyper-QU 等を活用して個に応じた支援体制の強化を図る。
- ③郷土芸能など地域の教育的資源を生かし、誇りと自信につなげる。

【具体的な取り組み】

○学習指導の充実

- (1) 協同学習の理念を活かし、授業改善を図りながら生徒の学びに向かう態度を育てる。
 - ・互いへのリスペクトと貢献を基礎に自尊感情を育み、挑戦させ、成長を確認させ、仲間への感謝と自分の役立ち感や達成感を持たせ、次への挑戦に向かわせる。
 - ・教科の特質を踏まえ、協同の理念の取り組みを通して育てたい資質・能力を育む。
- (2) 課題や宿題を工夫しながら家庭学習の習慣化を図り、基礎・基本の確実な定着に努める。
- (3) 個々の生徒の実態を捉え、長期的な視野のもと適切な進路指導に努める。

○人権教育の推進

- (1) 人権意識の向上を図り、お互いを尊重する態度を育成する。
- (2) 「自分の大切さ」とともに「他の人の大切さ」を認めることができる態度を養う。
- (3) 日常生活での偏見やいじめ、差別や人権侵害等を解消する実践的な行動力を培う。

○道徳教育の推進・文化的環境の充実

- (1) 人権教育との関連を図りながら日常における道徳的实践力を高め、豊かに生きる力を育む。
- (2) 全教職員の関わりを積極的に進め、多様な価値観に触れながら考える活動を進める。
- (3) 委員会活動やボランティア活動に積極的に取り組み、生活環境の美化・整備に努める。

○特別支援教育の充実

- (1) インクルージョン、ダイバーシティーを大切に、特別支援教育に対する正しい理解と認識を深め、校内支援体制の充実を図る。
- (2) 進路選択を視野に入れ、一人一人の能力を伸ばす学習指導の工夫・改善と充実に努める。

○学年・学級経営の充実

- (1) 「ともに伸びる精神」を大切にし、認め合い高め合う学級・学年づくりをめざす。
- (2) 育てたい資質・能力を明確にもち、意図的な仕掛けを工夫する。
- (3) 教職員間の共通理解を大切にし、生徒の実態や取り組みについて語り合える教師集団をめざす。

○生徒指導の充実

- (1) 一人一人に応じたきめ細かな指導を心がけるとともに、集団としての成長を図る。
- (2) 教育相談や個別指導を充実させて生徒理解を進めるとともに、情報の共有に努める。
- (3) 生徒との活動時間を大切にして行動（活動）の変容を見取り、適切な評価に努める。
- (4) 基本的生活習慣の定着をめざして継続的な指導に心がけ、生活力の向上を図る。
- (5) 日頃から些細なことでも情報交換を行い、適切な対策の検討と素早い対応に心がける。
- (6) 保護者との連絡をこまめに行い、信頼関係の確立に努める。

○健康と体力の増進

- (1) 健康教育を推進し、心身ともにたくましく生き抜く力を育てる。
- (2) 異学年の望ましいつながりを深めるよう学校行事や部活動の充実を図る。
- (3) 給食活動を充実させ、食育の推進に努める。

○特別活動の充実

- (1) 生徒会活動の活性化を図り、生徒の自主性や発想力を活かした活動を推進する。
- (2) 図書館教育を充実させ、本に親しみ自ら進んで読書に取り組める生徒を育成する。
- (3) キャリア教育の充実に努め、個々に応じた進路指導の充実を図る。

○小・中連携、保護者・地域社会との連携

- (1) 小中連携を校務分掌に位置づけ、9年間の成長を視野に入れた教育活動を展開する。
- (2) 積極的な情報発信を行いながら地域・保護者との協力体制を築く。
- (3) 伝統文化の保存・継承や、地域行事への参加をとおして地域貢献を果たす。

○今日的な課題への対応

- (1) 情報教育を推進しタブレット端末を生かした学習指導の研究と実践を進める。
- (2) 新学習指導要領に沿った指導・評価の改善を進める。
- (3) 教職員の世代交代を見据え、世代間ギャップが生じないよう、温かみのある人間関係の中でのOJTを実践し、ともに学び成長する職員集団となる。